

かわにし

小出特別支援学校

川西分校

学校だより

平成 27 年 6 月 1 9 日 発行



夢をえがき 一歩一歩前進する子

「社会と関わりながら生きていく力の育成」
に向けて

6月15日から始まった現場実習期間。学年毎に、現場に出る期間の違いはありますが、各学年とも3週間は現場実習、校内実習・職場見学に集中して取り組みます。重複学級、普通学級の生徒、様々な得意不得意な面をもった生徒がいますが、それぞれが自分に合った方法で仕事に取り組み、学校全体が真剣な仕事モードの雰囲気にも包まれています。

多くの企業や福祉事業所の皆様にご協力をいただきながら、実際の職場で、知らない大人の方々に囲まれて働く経験は、生徒にとって大きなチャレンジであるとともに、大切な学びの機会です。卒業後の自分の姿を思い浮かべながら、少しずつ目標とする自分に近づくように1日1日を貴重な体験の場と捉え頑張り続けてほしいと願っています。

保護者の皆様にも様々なバックアップをしていただき、ありがとうございます。お子さんの様子をご覧いただき、心配な点があればすぐに学校までお知らせ下さい。また、引き続き生徒が仕事に集中できる環境作りをよろしく願いいたします。

～現場実習の様子～



＜食品製造企業＞

全身白衣に身を包み衛生に気を付けながら作業をします。出荷荷物の段ボール作りをしています。



＜高齢福祉事業所＞

利用者さんに明るく元気な笑顔で接します。相手に伝わる声、人と接するマナーに気を付けています。



＜農産物出荷企業＞

出荷のためのラベルシールを貼ります。長時間同じ作業を続けるため、持続力と正確さが大切です。



＜建設業＞

資材の運搬や整理をします。1日作業を続ける体力はもちろん、安全確保の力も大切です。



＜就労系福祉施設＞

外部企業からの受託作業です。指示された方法や仕上がり具合に気を付けて落ち着いて続けます。



＜就労系福祉施設＞

施設で販売しているトイレットペーパーの包装準備をしています。丁寧な作業で品質を守ります。

～校内実習の様子～

1年生は、「サイドライン」様のご協力を得て仕事を受託し1日中作業に取り組んだり、近隣の作業所や企業に見学・体験に行ったりします。受託の仕事は、納品までの期限が決まっているため作業の質・量・スピードを意識しながら進めなければなりません。1年生にとっては、初めての長時間の校内実習で、疲れがたまるかもしれません。しかし、この校内実習の経験が、9月からのふれあいジョブ、11月の後期現場実習の際に校外で働くことに繋がります。前期の今こそ、長時間働く習慣作り、望ましい言葉遣い、態度等が身に付くように日々積み重ねていきたいと思えます。

<部品を一定方向に並べたり、テープを斜めに巻いたりしています。>



<ワークセンターかわにしでの体験>



重複学級では、来週から始まる現場実習に向けて働く意欲を高めるため、毎日午前中は作業に取り組みました。一人一人に合った仕事を準備し、自分の力を生かして製品づくりをしました。

<写真立てを作っています。>



いじめ見逃しゼロスクール

学校では、日頃から生徒と職員、生徒同士の信頼関係を築き、温かい人間関係を育むことを目指しています。また、問題行動の予防や早期発見に努めています。その取組の一環として、体育祭後のメッセージ交換、学校生活についてのアンケート実施、教育相談を行いました。

<1学期 学校生活についてのアンケート結果> 抜粋

- ◎「学校が楽しいと思いますか。」という質問では、「とても思う」「まあ思う」と答えた人が81%でした。
- ◎「授業がよく分かりますか。」という質問では、「とても思う」「まあ思う」と答えた人が94%でした。
- ◎「みんなで何かをするのは楽しいと思いますか。」という質問では、「とても思う」「まあ思う」と答えた人が88%でした。
- ◎「友だちからいやなことをされたり無視されたりしたことはありますか。」という質問では、94%の人が「まったくない」と答えました。しかし、「少しある」と答えた人は、「うるさい」などと友だちから言われたことがありました。生徒には、注意をする際にも言葉遣いや相手の気持ちを考えて行動するように十分に指導いたしました。今後も、生徒の様子を注意深く見守りながら、引き続き指導をしていきます。